

次世代に誇れるまちを目指して



平成28年3月定例市議会が、2月19日～3月17日に開かれ、平成28年度予算などが審議されました。同議会の冒頭に小泉市長が行った施政方針演説の概要をお知らせします。

整備されたJR成田駅前



施政方針を演説する市長

平成19年1月の市長就任以来、次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに向けて、常に全力投球で市政運営に取り組んできました。3期目のスタートとなった平成27年を振り返ってみますと、「新たな挑戦」をキーワードに市政運営に取り組んできたところであり、本市が新たなステージに入った1年だったと感じています。

4月に成田空港にLCC専用の第3旅客ターミナルがオープンしたのを皮切りに、6月には圏央道と東関道が大栄ジャンクションで結ばれ、成田空港や圏央道の利用者が増加しています。

7月には市川海老蔵さんを成田

市御案内人に任命し、JR成田駅前にオープンした文化芸術センター内のスカイタウンホールでのこけら落とし公演で「えびね延年の舞」を披露していただきました。

今後さまざまなジャンルの催しや展覧会などを開催し、本市の新たな文化芸術の発信拠点となるよう取り組んでいきます。

そして本市にとって大きな動きといえば、第3滑走路をはじめと

住んでよし働いてよし訪れてよしの生涯を完結できる空の港まちになりました

平成28年度は市総合計画「NARITAみらいプラン」の初年度です(6ページに関連記事)。

その基本構想では、市政運営の基本でもある「住んでよし働いてよし訪れてよしの生涯を完結できる空の港まちになりました」を将来都市像に据えました。そして、その実現に当たったのまちづくりの基本姿勢として、「若者や子育て世代に魅力のあるまちづくり」

する成田空港の機能強化について、四者協議会がスタートしたこと、昭和54年以来認められてこなかった医学部の新設がこの成田の地に認められたことです。これら2つの動きは、地域経済の発展、雇用の拡大、医療・福祉の充実、社会的文化的効果など、計り知れない恩恵を本市にもたらすものであり、最大の地方創生であると考えています。

「医療・福祉の充実したまちづくり」「空港と共に発展するまちづくり」という3つを掲げ、未来を見据えた、次世代に誇れるまちづくりを推進していきます。

平成28年度の予算編成では、NARITAみらいプランの方向性に沿った事業を中心に、限られた財源を効率的かつ効果的に配分することに努めました。この結果、一般会計では、対前年度比1・3

パーセント増の61.9億円、水道事業会計を含む特別会計を加えた

全体では1・6パーセント増の約91.2億円の予算を編成しました。

安全・安心で うるおいのある生活環境をつくる

自然災害の被害を最小限にとどめるには、地域防災力の強化が必須不可欠です。市では、地域防災計画の見直しに向け、防災アセスメント調査を実施します。

また、台風などによる崖崩れから、市民の生命や財産を守るため、崖地対策を推進します。さら

に、大規模災害にも対応できるよう、老朽化した三里塚消防署庁舎の建て替えなどを行い、消防体制の充実・強化を図ります。地域の防災体制については、高齢者や障

がい者など、災害時に支援を必要とする人を対象とした「避難行動要支援者名簿」を作成し、災害時の支援体制の整備に努めます。

地域の安全対策で

は、青色回転灯を装着した防犯パトロール車に「動く防犯カメラ」としてドライブレコーダーを設置するなど、第3次成田市防犯まちづくり推進計画に基づいた施策を推進します。

全国的な問題となっている空き家対策については、空き家全般に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。

幅員が4メートル

未満の生活道路(狭あい道路)については、安全に通行できない、災害時に避難の妨げになるなどの問題があります。これらの問題を解消するため、建築基準法の規定に基づき後退した用地を道路として整備します。

健康で笑顔あふれ、 共に支え合う社会をつくる

少子化が進み、地域コミュニティが希薄化する中、仕事をしながらも安心して子どもを産み育てられ、子どもが健やかに成長できるように、社会全体で子育てを支えることが重要です。

待機児童解消に向けた取り組みとしては、定員拡大と保育環境の向上を図るため、吾妻保育園の大规模改修工事に着手します。また、平成28年度中には、本市初の株式会社による認可保育園が新設されます。さらに、認定こども園2園の新設に対して、補助金を交付するとともに、きめ細かな運営支援をしていきます。

また、保育園・幼稚園において、低所得により生計の維持が困難な家庭の保護者には、日用品、文房具などの購入費、行事への参加費などの一部を補助します。

児童ホームについては、4月に

環境政策については、住宅用太陽光発電システム設置への補助などを継続することにより、二酸化炭素の排出量の削減に取り組みます。さらに、地域エネルギー会社への出資を行い、エネルギーの地産地消を進めます。

三里塚第二児童ホームと吾妻第三児童ホームを開設します。さらに、久住児童ホームの増築工事を行うなど、放課後における留守家庭児童の健全育成の充実を図ります。

超高齢化社会を目前に控え、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりを推進していきます。

まず、要支援者のニーズに合った介護予防・生活支援サービスの構築を進めるため、10月から「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」を実施します。

地域文化を生かし、 未来を担う心豊かな人材を育む

子どもを取り巻く環境は、少子化の進展や社会構造の変化など、さまざまな問題を抱えていて、取り組むべき教育課題が山積しています。



子育てしやすいまちをつくる

また、重度の要介護状態になっても、本人が希望する暮らしを続けることができるよう、在宅医療・介護連携推進事業を進めます。同様に、障がいのある人も住み慣れた地域で安心して暮らせるよう取り組んでいきます。日中の活動の場や、グループホームなどの住まいの確保に努め、障がい福祉サービスの充実を図ります。

このことから、市では学校教育に関する施策を総合的に推進するための「成田市学校教育振興基本計画」を策定します。そして、子どもたち個々の能力を伸ばし、将



友達に英語で質問

来に夢と希望を持って自分の進むべき道を切り開く力を育むための教育を推進します。

特に、全国に先駆けて取り組んできた児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成については、今後その重要性が増すと考えています。そこで、全小中学校に外国人英語講師を配置するなどして、子どもたちの英語による発信力の向上に努めます。

また、情報教育の充実を図るために、平成28年度より順次、小学校の普通教室へのLAN整備を行うとともに、タブレット端末などのICT(情報通信技術)機器の整備を進めます。

小中連携教育では、児童・生徒

の成長を義務教育9年間で捉えた、きめ細かで系統的・継続的な一貫性のある指導が求められています。市内唯一の小中一貫教育校である、下総みどり学園の活動の成果を踏まえ、特色を生かした教育を推進します。

学校施設整備については、大栄地区の5つの小学校を統合し、中学校と一体となった校舎を建設するため、引き続き実施設計を進めていきます。同時に、生徒数の急激な増加に対応するため、久住中学校の増築工事の基本・実施設計を行います。

また、新山小学校・吾妻中学校の大規模改造工事を実施し、教育環境の変化に対応した施設の整備を図ります。さらに、小学校のトイレを洋式へ改修する工事を、平成28年度中の完了を目指して実施します。

4月から、給食費が改定されますが、今後もおいしく、栄養豊かでバランスの取れた安全・安心な給食の提供に努めます。学校給食

施設整備については、引き続き共同調理場の整備に取り組んでいきます。

生涯学習の推進については、平成28年に開設20周年を迎える、明治大学・成田社会人大学のさらなる充実に努めます。同時に、青少年の健全育成を推進するため、放課後子ども教室の設置校を増やしていきます。

生涯スポーツの振興については、中台運動公園の陸上競技場観覧席の改修や体育館のアリーナに空調設備を設置するための実施設計など、各種スポーツ施設の整備・充実に取り組んでいきます。

また、成田スポーツフェスティバルなどを通して、市民スポーツ・レクリエーション活動の推進に努めます。

なお、市と教育委員会が教育政策について協議する場として、平成27年に設置した「総合教育会議」において「成田市教育大綱」を定め、教育や学術・文化の振興を総合的に推進します。

空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる

東京オリリンピック・パラリンピックの開催とその後を見据えた空港の機能強化について、平成27

強化に向けた議論が交わされていて、市ではその取り組みを促進します。

一方、成田空港の発展のためには、騒音地域の住民の理解が不可欠です。そこで、平成27年末に「成田市成田国際空港総合対策本部」を設置しました。騒音地域の要望、騒音・落下物への対策、今後の機能強化に伴い新たに発生する課題について、的確に対応できるように取り組みます。

このほかにも、2018年世界女子ソフトボール選手権大会の本市での開催や、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリリンピック・パラリンピックに向け、事前キャンプの誘致を



世界的アスリートが市内でキャンプ

進めていきます。

国際医療福祉大学医学部については、平成29年4月の開学を目指して、校舎建設工事が進められています。市では、地域医療の充実のため、県と協力しながら必要な補助を行うとともに、附属病院の開設に向け、用地の取得など必要な手続きを進めていきます。また、地域貢献や協働事業について大学と協議していきます。

都市計画については、都市の抱える各種課題や社会情勢の変化に対応するため、まちづくりの方向性を定める「都市計画マスタープラン」を策定します。

本市の玄関口であるJR・京成成田駅中央口地区整備事業については、JR成田駅東口の再開発事業が3月に完了しました。今後国際空港都市の顔にふさわしい、安全で快適な駅前整備を進めていきます。

また、表参道の整備についても、訪れる人が安全に通行し、楽しんでいただける街並みの形成を進めます。

さらに、若者に人気のあるスケートボードが、今後スポーツとして広く普及すると考えられるため、スケートボードパークの整備を進めます。

活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる

平成27年の訪日外国人旅行者数が過去最高を更新するなど、外国人旅行者の日本への注目が高まっています。本市でも「観光振興基本計画」を策定し、計画的に観光振興を進めていきます。

国際空港を擁する強みを生かし、海外の旅行会社へプロモーション活動を行うなど、訪日外国人旅行者の獲得に努めます。国内線就航先に対してもシティセールスを強化するなど、観光客の誘客に積極的に取り組みます。

また、成田市御案内人・市川海老蔵プロジェクトや成田伝統芸能まつりといった日本の伝統芸能・文化を活用した本市の魅力発信に

も努めます。

商工業の振興については、中小企業の経営基盤の安定・強化のため、資金調達の円滑化や利子補給による支援を行います。ほかにも、市内での創業を目指す人を対象にしたセミナーの開催や創業時に必要な資金の支援などを実施します。

また、成田空港の機能強化や圏央道・北千葉道路などの整備により、本市の立地優位性が高められ、企業の進出が見込まれます。市では企業誘致を推進し、雇用の創出を図っていきます。

市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う

少子高齢化が進行する中で、今後も持続可能なまちづくりを進めるには、幅広い市民参画がますます重要になります。

そこで、次世代を担う若者や子育て世代などを対象とした市民向けワークショップの開催などにより、さらなる市民参画を促していきます。また、「成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一層の推進を図ります。

市有財産の適切な管理について

農業行政については、農地の集積と規模拡大を促進していくほか、生産性向上のための機械・施設の導入に対する支援、新規就農者などの担い手の確保・育成、農道や農業用排水路の計画的な整備など、農業経営基盤の強化に努めていきます。加えて、生産者の顔が見える農産物販売を通じた地産地消の推進や、体験農業を通じた都市と農村との交流などについても、積極的に進めていきます。

卸売市場については、輸出実証事業での成果と課題を踏まえ、輸出拠点機能を持つ市場再整備の早期実現に向けて、関係機関と連携し取り組んでいきます。

は、「公共施設等総合管理計画」を策定し、長期的な視野で更新・統廃合・長寿命化などに取り組み、財政負担の軽減に努めます。

「広報なりた」については、より読みやすく、親しまれる紙面づくりに努めます。その一方で、スマートフォン用アプリ「広報なりた」やフェイスブックを利用した情報発信など、インターネットを活用した市政情報の提供も行っていきます。ホームページについて

も、より閲覧しやすく、必要な情報がすぐに見つかるページづくりに取り組んでいきます。

ケーブルテレビについては、市全域への普及を視野に、まずは騒音地域における視聴エリア拡大に向けた調査を進めます。

また、10月には、県から手続きの委託を受け、市民課総合窓口でパスポートの申請の受け付け・交付を開始します。市民にとって、より身近な窓口で手続きができ、利便性が一層高まると考えています。

平成27年末に、

ノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智・北里大学特別名誉教授は、長年の地道な作業と苦勞の末、感染症の特効薬となる物質を土壌の微生物の中から発見し、アフリカなどの人々を失明の脅威から救いました。人のために役立つことはないかを、絶えず意識し続けてきたといいます。強い信念に基づき、

実行しているからこそ、真に役立つ偉大な発見と研究を成し遂げることができたのだと思います。

市政を預かるわたしの「市民のために」という強い思いは、分野や置かれた立場の違いはあるとは言え、人のために役立ちたいという大村さんの信念と同じです。

今後も、「住んでよし働いてよし訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まちづくりという、本市の未来を見据えた大きな目標に向かって、粉骨砕身の覚悟で市政運営に取り組んでいく所存です。



ボランティアガイドが新勝寺をご案内



成田の未来をみんなで考える